

# 若年者の顔面尋常性痤瘡に対する 十味敗毒湯の自覚症状及び 他覚所見改善効果について

松尾けんこうクリニック(宮城県) 松尾 兼幸

尋常性痤瘡とは、主に思春期の男性や女性の顔面部に生じる毛包一致性の丘疹あるいは膿疱をもつ炎症性反応である。今回、この尋常性痤瘡に対し新規にて開始した十味敗毒湯の臨床効果を検討した。臨床効果の判定では、全皮疹数が減少し、さらに開放面皰、閉鎖面皰、紅色丘疹及び膿疱のすべてにおいて有意な減少が認められた。また患者満足度については局所皮膚症状において90%以上の患者が改善を自覚していた。

## はじめに

痤瘡、いわゆるにきびとは、主に思春期の男性や女性の顔面部に生じる毛包一致性の丘疹あるいは膿疱のことを示し、一定期間の十味敗毒湯内服による臨床効果が示されている。当院ではすでに十味敗毒湯の患者満足度を含めた尋常性痤瘡に対する全般的な臨床効果について報告し<sup>1)</sup>、その有効性を示している。そこで今回は、新規に十味敗毒湯による尋常性痤瘡治療を開始した場合の有用性を、医療側の皮膚所見の変化のみではなく、自覚症状による患者満足度の観点から評価し報告する。

## 対象と方法

2014年1月から9月まで顔面部痤瘡の診断にて当院を受診し、新規にて治療を開始する患者16例を対象とした。治療法としては、クラシエ十味敗毒湯を1日2回(6錠/回)、2週間以上の内服と外用治療併用にて開始した。

他覚所見については、開放面皰、閉鎖面皰、紅色丘疹、及び膿疱について投与前後で検討した。また患者の自覚症状に対する効果については、投与開始前後で局所皮膚症状

(痤瘡の疼痛、痒痒感、発赤など)と、患者自身が感じる顔面部の脂っぽさ、化粧のノリ、痤瘡があることへの苛立ちや不安に対して各項目4段階評価のアンケート調査を実施した。他覚所見の解析に関しては、投与前と投与後にてWilcoxon signed rank testを施行し、危険率5%未満を有意差ありとした。

図1 開放面皰の推移

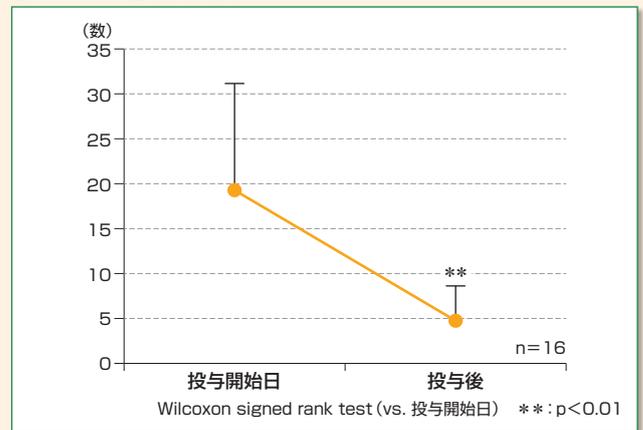
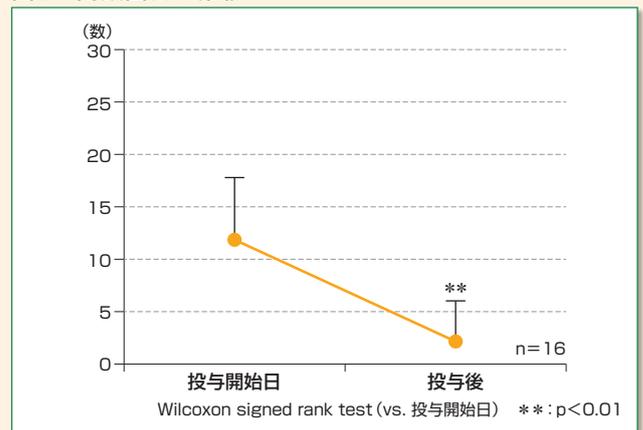


図2 閉鎖面皰の推移



## 表 患者背景

性別	男性4例、女性12例	
年齢	23±8歳(13~41歳)	
罹病期間	3±2年(0.3~5年)	
併用薬	あり	15例(併用を含む)
	抗菌薬外用	13例
	レチノイド製剤外用	3例
	その他	
	保湿剤	1例
	非ステロイド系外用薬	1例
	なし	1例

図3 紅色丘疹の推移

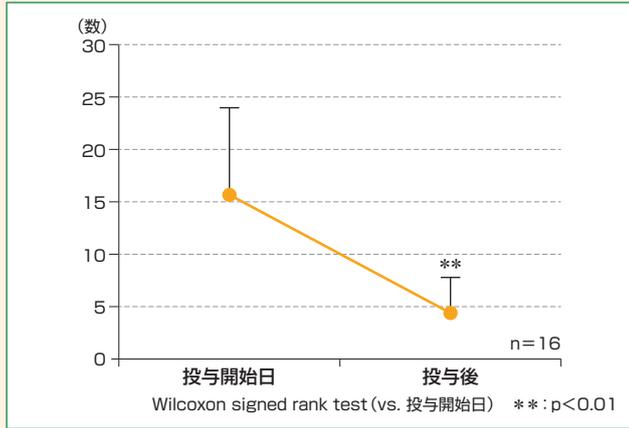


図4 膿疱の推移

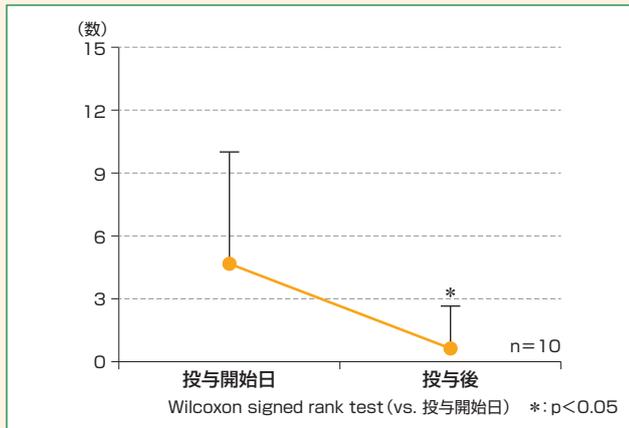


図5 自覚症状による患者満足度

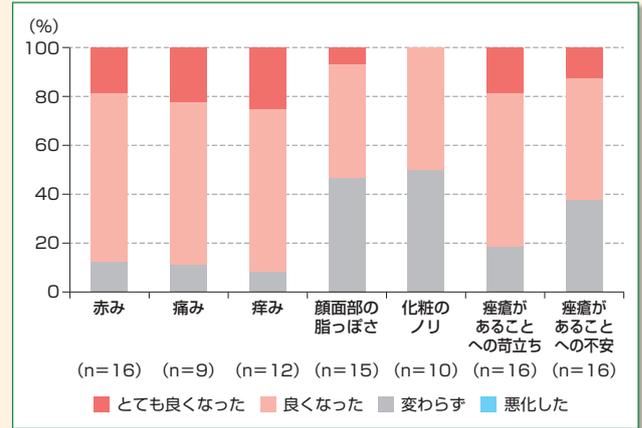
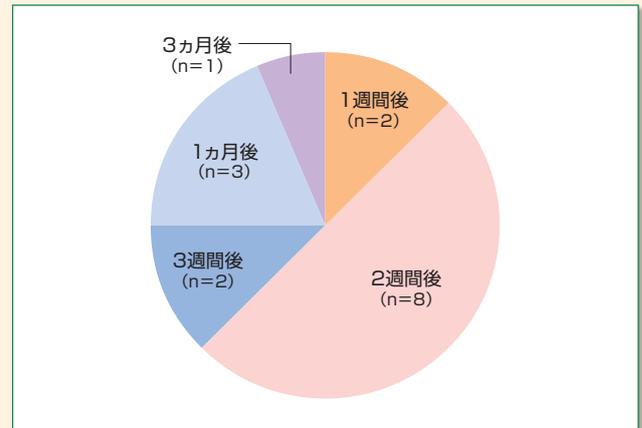


図6 自覚症状改善時期



## 結果

表に患者背景を示す。平均年齢は23±8歳、平均罹病期間は3±2年であった。併用薬としては抗菌薬及びレチノイド製剤の外用が多かった。

**他覚所見について：**図1から図4に結果を示す。投与後において、尋常性痤瘡の皮疹数は、開放面皰、閉鎖面皰、紅色丘疹及び膿疱において有意な減少が認められた。(開放面皰、閉鎖面皰、紅色丘疹：p<0.01、膿疱：p<0.05)

**自覚症状について：**図5の局所皮膚症状に関しては、90%以上の患者が改善を自覚していた。他の自覚症状に関しては、顔面部の脂っぽさに対し54%、化粧のノリに対し50%、痤瘡があることへの苛立ちに対し82%、そして痤瘡があることへの不安に対し63%の改善が認められた。

また図6よりこれら改善を自覚した時期は、内服開始2週間後8例(50%)が最も多く、次いで1ヵ月後3例(19%)であった。

全症例がほとんど飲み忘れなく内服ができていた。さらに本調査中には、十味敗毒湯によると思われる副作用は認められなかった。

## 結論

今回の検討では新規に治療を開始した尋常性痤瘡患者に対する十味敗毒湯の効果について検討した。この臨床効果については他覚所見、自覚症状の両面から検討し、ともに良好な結果を得た。そして、治療開始早期から尋常性痤瘡治療による自覚症状の改善など患者満足度に関連する内容を確認する重要性も示された。

## 【参考文献】

- 1) 松尾兼幸: phil漢方 No.52, 26-28, 2015